

キリストによってキリストとともにキリストのうちに

西脇純

(1) 聖グレゴリオの家HPより

教会音楽のまことの目的は、神の栄光と賛美、信徒の聖化にあり、(音楽の)実践の前に、神への礼拝—祈り—なくしてその真髄に達することは出来ない。日々止むことなく捧げられる礼拝からすべての活動が流れ出る。

(2) 「典礼憲章」第115条『第二バチカン公会議公文書 改訂公式訳』より

音楽教育とその実践が、神学校、男女修道会の修練院、修道会修学院において、さらに他のカトリックの教育機関と学校において重要視されなければならない。このような教育を実現するために、教会音楽の教授に携わる教師は行き届いた養成を受けなければならない。さらに、適当であれば、教会音楽に関する高等研究機関を設立することが勧められる。作曲家、聖歌隊員、なかでも少年聖歌隊員には、真の典礼教育も施されなければならない。

(3) 「創立40周年 聖グレゴリオの家」より

教会の宝とされている、教会の伝統あるさまざまな音楽が教会から段々と見放され、教会以外で盛んになっていくのにしたがって教会音楽家の養成、教会音楽の保存、また日本において独特の教会音楽の発展と典礼教育のための研究所の必要性を強く感じ、その設立実現の計画を企てました。

(4) 宗教法人「聖グレゴリオの家」規則より(下線は講演者)

第1章第3条 この法人は、救世主イエズス・キリストの啓示に基づき、唯一、聖、公、使徒承伝をその特徴とするカトリックの教義をひろめ、儀式行事を行い、信者を教化育成する為の財務及び業務を行うことを目的とする。

(5) 「ニケア・コンスタンティノーブル信条」より

[...] Et unam (唯一の), sanctam (聖なる), catholicam (公の=普遍の) et apostolicam (使徒承伝の=使徒的) Ecclesiam (教会を [信じます]) [...]

(6) 「聖グレゴリオの家 宗教音楽研究所案内」より

[...] (私たちは) ヨーロッパ各地のベネディクト会修道院、テゼー、イムスハウゼンの共同体、ビザンチンの修道院等を訪れ、ともに典礼を祝うことをとおして霊的経験も深めてきました。宗教音楽に関することですから、精神的土台がなければ、どんな立派な研究所が建っても、適切な使命を果たすことはできないからです。私たちは、日々典礼をとおして神を礼拝する、祈りによって結ばれた共同体を必要としたからです。日本における教会音楽の発展には、カトリック教会ばかりでなく、他の宗教の人びと、またどこにも属していない人びととともに手をつなぎ合っていくことが大切であると考えております。400年前、私たちの信仰の先駆者たちがすでに有馬において輝かしい成果をあげたように、東久留米の小さい研究所が、典礼とその音楽をとおしてこの地に根付き、精神的にも文化的にも役立つことを願っております。

(7) ミサ奉献文の結びの栄唱

Per ipsum, et cum ipso, et in ipso, est tibi Deo Patri omnipotenti, in unitate Spiritus Sancti, omnis honor et gloria per omnia saecula saeculorum.

キリストによってキリストとともにキリストのうちに、聖霊の交わりの中で、全能の神、父であるあなたに、すべての誉れと栄光は、世々に至るまで、アーメン。

(8) 栄唱

Gloria Patri, et Filio, et Spiritui Sancto. Sicut erat in principio, et nunc et semper, et in saecula saeculorum. Amen.
栄光は父と子と聖霊に。初めのように 今も いつも 世々に。アーメン。